

# 別府大学主催「子どもの読書活動推進研修会」について

司書課程委員会委員長 佐藤 允 昭

2004年7月、別府大学において「第1回子どもの読書活動推進研修会」を開催した。この研修会を開催するに至った背景及び研修内容を報告したい。

子どもにとっての読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにするなど、人生をより深く生きるために必要な力を身につけていくうえで欠くことはできない。しかしながら、各種調査では「この1ヶ月間に全く本を読まなかった」と回答する子供は年々増えている。要因としては、携帯電話、テレビ、ビデオ、インターネットなどの情報メディアの発達・普及などが指摘される。2002年の全国世論調査の結果から読売新聞は、「本を全く読まない人の比率が過去最高を記録する一方、自分たちが小中学生の時と比べて、今の子ども達は読書をしていないと感じる人も4人に3人」と子どもの本離れの深刻な状況を報じた。

以上のような危機的状況のなか、子どもの読書活動推進の気運も生じてきた。

まず、2000年5月5日の「こどもの日」に国立国際子ども図書館が開館。それを記念して2000年を「子ども読書年」とし「新しい世紀に向かって、いっぱい本を読もう」という年にした。(国会決議)

2001年には「子どもの読書活動の推進に関する法律」が制定・公布された。この法律では、すべての子どもが機会・場所を問わず、自主的に読書活動が出来るよう積極的に環境整備が推進されるよう法律で制定し、国や地方公共団体の役割を明示。この法律を受けて政府は2002年8月に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を閣議決定し、①家庭・地域、学校を通じた、子どもが読書に親しむ機会の提供、②図書資料の整備など諸条件の整備・充実、③学校、図書館などの関係機関、民間団体等が連携・協力した取り組みの推進、④社会的気運の醸成のための普及・啓発を推進することとした。

地方自治体でも順次読書推進計画が策定された。大分県の場合は、2004年に「大分県子ども読書推進計画」を策定、県立図書館子ども室に子どもの本について大人が学習する「子ども夢ライブラリー」をオープンした。その内容は、①新刊児童図書の展示、②図書館・図書室、読み聞かせグループ等への貸出、③優良図書の展示など子どもの読書を応援するものなどである。

以上のような経緯もあり、別府大学では、長年にわたる司書及び司書教諭養成の経験を生かして、子どもの読書活動推進に携わっている多くの方の資質向上と経験交流の機会を提供するために「子どもの読書活動推進研修会」を実施した。研修演題・講師は以下の通り。

研修1 「子どもと本をつなぐ」 田島貞子氏 (大分県立図書館奉仕第1課児童係)

研修2 「挾間町立図書館の取り組み」 山月美江子氏 (挾間町立図書館長)

研修3 「子どもの読書活動と図書館」 朝比奈大作氏 (横浜市立大学教授)

研修4 「学校図書館の現状と課題」 伊藤裕治氏 (大分県学校図書館協議会事務局長)

当日、県内外から110名を越える参加者を得て大変好評であった。今回のわれわれの小さな試みが僅かでも子どもの読書活動推進に役立つのであればこれに勝る喜びはない。引き続き2005年も開催を予定している。卒業生諸君の参加も大歓迎。これを機会に母校を是非訪れてほしい。

(さとう まさあき 別府大学教授 附属図書館館長)